

その他——室内での遊びとして、まりつきなわとび、お手玉、あやとりなどがある。あたたかいたつに足をぬくめながらあやとりをして冬の夜長をたのしむのも、子供の世界であろう。

以上述べた冬の遊びは、私の眼に映じた子供の世界を描いたのであって、まだこの他にもいろいろな遊びがあるかもしれない。

子供はその風土や環境に即して自由な創造をいつもはたらかせている。おとなが逃れたかと思つている「冬」を彼等は喜んで迎え、その中に没入し切つて十分に「冬」をたのしむことのできる新鮮さを持つている。

(福井大学学芸学部附属小学校)

冬の北九州

笠井久子

暖国九州は、雪国の方々の、想像もつかない様な事があります。

毎年十一月中旬より、翌年三月頃まで、霜を見ますが、其の間、厳寒といはれるのは、一月より二月十日頃までにて、正月に雪が降れば、非常に、珍らしい位で、一冬通して、三、四回位しか積りません。其の内、よく降り積つて、十糎程度ですし、而かも、温度が零度以下になるのは、冬期も一、二月頃の夜明け頃で、日の出と共に、暖まり、三、四度位が、厳寒期の気温です。従つて、当地方の児童は、雪国の、なだれの恐ろしさや、屋根まで以上の積雪は、写真以外には、見た事がありません。又寒気についても、零度以下、十度とか、二十度とかいう寒さが、どんなものであるのか知らないのです。

そのため、冬籠りという事はありません。元氣な児童は、年中屋外で遊べるのですが、それでも矢張り、冬ともなれば、活動は鈍り(屋外は、雨の為地面が、乾かない日が多くなる)ストーブや、火鉢が、恋しくなり、室内の生活が多くなりがちで、消極的な幼児は

戸外の遊びを嫌い、外気に解れる機会が少くなり、一層抵抗力を弱める原因になります。

常に厳寒にも耐へ得る丈夫な体力は、初秋の頃から、薄着の習慣をつけ、屋外で、出来るだけ遊ぶ様、注意しなければなりません。

屋外の遊びの第一は雪合戦です。年に一

度は位は、雪が十糎位積りますと、大変です。空模様で雪だろうと思われる日は、大人も小児も、明日はどうぞ、雪がたくさん降る様にと、祈ります。朝雪を見ると、早くから、特に小児は騒ぎ出し、早速のおだんごや、雪のごはんが出来ますが、起きると、雪合戦が初まります。街角には、雪だるま、雪うさぎ等が並びます。

二階の屋根まで登り、雪をかき集めますが雪が足りなくて、泥混じりの雪玉が飛ぶありさまです。いくら歌を唱つても、仲々雪は降つて呉れないで、折角の、雪だるまも其内御日様に溶けて消えてしまいます。

然し子供達には、此の時ばかり、自然観察の方面から力を入れてよく指導します。

第二は風上げてす。お正月の野外での遊

びとして、子供には、よい運動と、興味を持つもの。お正月になると、川岸や、青芽の生え始めた麦畑の上空に、数十の、春風と書いた菱風や、奴風が、天高く舞う様は、寒さも忘れて見物に行き度い位です。

社日さん 十二月十五日に、社日さんという祭が、各部落で行われます。同年令の者ばかり集って共同の炊事をし、おごちそうをして、御互の親睦を計るのですが、大体姉さん達の世話で行われる。家族的な、地方の風習の名残りですが、次第に薄れる傾向があります。

ほけんぎょう 一月十五日未明、松の日が終了、十四日に少年が中心となり、メ縄や角松のお飾りを集めて、笹竹や大竹と一緒に燃やして、ボンボン音を立てて、勇ましく火の手を上げ、其の火でお餅を焼く遊びで、悪魔退散の折りと、保健の折りを兼ねたもので、大人も混って、強い子達が先頭立って行います。

草すべり遊び 河岸の堤防や、堤の土手の傾斜を利用して、「木そり」様の、簡単な

道具(木製)を作り、其れに袴って、滑り下りるのです、之はスキーの出来ない当地方として、滑べるスリルを、味い度いからではないでしょうか。

ローラスケート
スケートの感覚を味う遊びとして、男の児が好んで行うもので、(特に営業的)に靴裏に、小車輪をつけて、ガラガラいわせて、補装道路上や、コンクリート上を、滑る遊びです。

縄飛び ゴム紐や、綱で、両端を持って居て、高さを地上より、次第に上げていってその紐を、順次に、歌い乍ら、飛び越す遊びで、女兒が好んで行うその歌詞は

波は どんどと 打ちよせて
ここは 浜辺の 山のう
青空高く そびえ立ち
錦の旗が 立っている

次に、室内の遊びとして、各地共通のがあります、矢張り、クリスマスが一番に考えられます。割に当地方は、仏教徒が、多い様

ですが、宗教的の意義を考えての事ではなく、四月八日の、お釈迦様の花祭りと同じく、社会的に偉大なる人物を慕うお祭りとしてクリスマスは取除けられません。

即ち、お飾りを作ったり、贈物を造ったりして、子供の楽しみを一つ加えてやるつもりで、計画的に、時間を掛けてやります。

人間キリストや、サンタクローズのお爺さんについても、知らない父兄も、存外多く子供達を通じてのお話しも忘れません。

製作員として、お星さま、ローソク、靴下家、木、サンタクローズの面、わつなぎ等、共同作業します。歌は、ジングルベル等とし園長がサンタのお爺さんになり、劇の稽古も致します。

お正月のしたく さて、私達の、最も喜び楽しむお正月は、寒さと共に、ずんずん来るが、親の渋い顔に比べて、朗らかな児童の夢は益々暮ります。

すごろく作り 下絵は、画用紙十六枚に絵を書いたものを下二枚、ハトロン紙に貼り振り出し、上り等を製作させる。

ねこ貝はじき 小貝又は、ガラスの薄い

円形の玉で、畳の上で行う、おはじき遊び。

カルタ遊び 文字と、教に対する、初步

的な暗示と、興味を導入する事が出来る。

火鉢を囲んで 両手を表向けて揃え、お

せんべいが、焼けたかな、一二三で、さされ

た児は、裏返していき、順々に繰り返して、

早く両手が裏になったものが勝つ遊び。

ずいずいづつころぼし ごまみそずい

数人の児が、輪になり、両手を軽く脂先だけ

中空に握り、各自の作った穴に、皆で歌い乍

ら一人が順次に、人指し脂で、さしていき、

当った児は、手を引く、両手とも当って、早

く引き込められた者が勝つ遊びで、人数は次

第に減るが最後までする。

その歌詞は、

ずいずい、ずつころぼしや、ごまみそずい

しやつぽに、おはれて、とうびんしゃん、

ぬけたら、どんどこしよ、たわらのねずみ

が、米食ってしよ、しよしよっしよ、お父

さんがよんでも、お母さんがよんでも、い

きるこなーしよ、井戸の廻りで、御茶碗破

ったの、だあれ、わたし

まりつき まりをつく時、当地方では、

こんな歌を唱い乍らつきます。大体五十位の

数になります。

ねこねんねこ さかやねこ

さかやが いやならよめらかそ

よめりの どうじは 何々ろ

箆筒 長持 鉄み箱(裁縫箱)

此れしこ 持たせて やったなら

帰えろうてつども 思わすな

ねこねんねこ、さかやねこ

以上のようなものが、当地方に於ける、遊び

としてありますが、自由遊びを通してみます

と、男児の遊びは、屋外的で、活動的で、変

化も強いが、女児の遊びは、普通、羽根つき

石けり等の遊びが多く、性格的に見て、当然

の事と思われれます。お天気の時、出来るだ

け、屋外保育をして、粘土製作や、絵画や、

お話し、唱歌、リズム遊び等をなし、賭け遊

びの、ラムネ玉打ち、パッチ返し、等は中止

させ、健全な、集団的な遊び、例えば、ごろ

ごろさん遊び等、又福笑い等の、個人にては

興味がない遊びをと、方向づけています。寒

いからとて、お炬燵に入り切りで、一日を過

す事や、寒いからとて、その防禦面のみを思

つてやる事より、大いに活動して体温を暖た

める様、積極的な遊びに、方向づけて行き度

いものです。(久留米幼稚園)

冬の南九州

守田 キョカ

各地方に古くから伝わる特有な遊びは、そ

の地方に於ける古来よりの風俗、風習又数々

の伝説に裏付けされて、今日にいたるまで、

子供の遊びの中にも見られるようです。

その「遊び」の数々も特に戦後を境として

中央や他府県に於て行われていた所の「遊

び」が、ラジオにより、或は転入者によって